

G T O

学校だより No.2

平成23年5月27日

唐津市立鬼塚中学校

Tel 0955-78-0135

Fax 0955-78-1194

教育目標

「感動、感謝、思いやり」

～豊かな人間性・確かな学力・たくましい身体の育成～

大切な思い出となった修学旅行

去る5月18日(水)から20日(金)まで、3年生は南九州へ修学旅行に行ってきました。初日から天候に恵まれ、素晴らしい3日間になりました。体調を崩していたり、怪我をしたりして前日まで欠席していた生徒たちも当日は全員そろって出発することができました。本当にうれしく思います。

1日目は、高速道路をバスで新八代駅まで行き、4月に開通したばかりの九州新幹線で新鹿児島駅まで行きました。快適で早い列車の旅に生徒たちも感動したようです。また、新鹿児島駅からは自主研修の始まりです。各班が事前に調査していた建物や場所を目指してばらばらに行動します。その中で昼食もとることになっていました。最終地点が鹿児島水族館で、イルカやラッコのショーや悠々と泳ぐジンベイザメなど見所がたくさんありました。その後バスで指宿に向かい宿泊しました。



(ホテルでの夕食)

2日目は、平和学習・公害学習の日でした。平和集会を行い神社に折り鶴を奉納したり、知覧の特攻資料館で語り部の方の話を聞き資料館を参観したりして、戦争や平和について学ぶいい機会になったと思います。また、午後は水俣に移動し、公害「水俣病」について水俣病に認定されておられる語り部の方の話しを聞き、資料館でも水俣病の発生から現在の取り組みに至るまでの学習をすることができました。生徒たちにとっても貴重な体験になったと思います。この日は人吉温泉に宿泊しました。



(知覧の語り部の方)

3日目は、三井グリーンランドで様々な乗り物にのり楽しんでいました。友達同士で写真を撮ったり、先生方と撮ったりしながら修学旅行の最終日をおもいきり満喫していたようです。集合時間もきちんと守れたので予定より早く帰校することができました。

修学旅行は、生徒たちの自主的参加が見込める教育的価値の高いものです。また、学校生活に彩りとメリハリを与えるものと言えます。生徒たちには、1年間様々な学校行事に積極的に取り組み感動を体験して欲しいと思っています。



(三井グリーンランド)

2年生 遠足



5月19日(木)に2年生は、東の浜の海浜公園へ遠足に行きました。到着してから、ボランティア活動として浜の清掃活動をしました。天気にも恵まれ貴重な体験となりました。

1年生 宿泊訓練



5月18日(水)～19日(木)に1年生は、北山少年自然の家で宿泊訓練を行いました。野外炊飯やウォークラリー等、班の仲間と協力して頑張っていました。友達の良いところをたくさん見つけたようです。

鬼塚中学校伝統行事 茶摘み

5月6日(金)の3・4時間目に1年生が、旧中学校跡(現小学校グランド横)の茶畑で茶摘みを体験しました。これは、育友会の会長さんをはじめ、美化部や総務部の方々が肥料をやったり、下草を刈ったりして管理していただいているからこそできることであり、代々続いている本校の行事です。永く続いていることに感動しました。

生徒たちが摘み取った新茶は全部で15kg程ありました。製茶工場に持っていき加工して生徒たちに飲ませる予定です。



6月の行事予定

- | | | | |
|---------|------------------------|-----------------|---------------|
| 6/1(水) | セミナーテスト(全学年 国語・理科・英語) | 6/22(水)～6/24(金) | 1学期 期末テスト |
| | 鬼塚中学校授業公開(三校合同研修会) | 6/23(木) | 避難訓練 |
| 6/2(木) | セミナーテスト(全学年 社会・数学) | 6/24(金) | Q-Uテスト |
| | 教育相談日(5/31～6/13) 生徒総会 | 6/28(火) | 生徒会専門委員会・評議員会 |
| | 校区PTA・育友会拡大代表者会 | | 唐津中体連水泳大会 |
| 6/3(金) | 耳鼻科検診(全学年) | | |
| 6/7(火) | 内科検診(2年) | | |
| 6/8(水) | 学年朝会 内科検診(1年) 集金日(8～9) | | |
| 6/10(金) | 漢字検定 英語検定 | | |
| 6/14(火) | 県立高校説明会(3年) | | |
| 6/16(木) | 平和映写会 | | |
| 6/17(金) | テスト前部活動停止期間(17～23) | | |
| 6/19(日) | 唐津市教育の日 授業参観 午後講演 給食有 | | |
| 6/20(月) | 代休日 | | |

< 心の泉 >

人は自 分 自 身 の た
 めに 生 活 する よ り、 他
 人の た め に 生 活 する ほ
 うが 満 足 が 大 き い の
 だ。

(ヘルマン・ヘッセ)